



雨宮純著 Jun Amamiya

あなたを陰謀論者にする言葉

Forest
2545
Shinryo

まえがき 自然派でスピリチュアルなヒーラーかつ陰謀論者で、さらにはマルチ商法の販売員

2021年1月某日に世界中すべてのメディア、インターネット、電話、テレビ番組がシャットダウンされ、トランプ大統領のメッセージに切り替わります。この放送は1日8時間を3回、10日間ほど放送され、人身売買をはじめとした闇の勢力の悪事や新しい金融システム、地球外生命体とのコンタクト情報などが暴露されます。一説には東京を戦車が走ると言われています。この刺激的な放送に備えポップコーンを用意しましょう。

この著者は冒頭から一体何を言っているのか、と思われたことでしょうか。

初見の方にはまったく意味がわからないと思いますが、この怪文の正体は「世界緊急放送」というもので、Qアノンと呼ばれる陰謀論者の間で定期的に出回るものです（Qア

ノンについては本文中で説明します)。闇の勢力が隠している種々の情報を正義の味方であるトランプ元米大統領が暴露し、陰謀論者こそが真実を知っていたことが証明されるといふわけです。

まるで映画かアニメのワンシーンのようですが（特に東京を戦車が走る部分は「機動警察パトレイバー」の劇場版第2作を彷彿とさせます）、陰謀論者はこれを真面目に信じており、数カ月に一度陰謀論インフルエンサーから緊急放送の日付が予言されると、一気にTwitterのタイムラインが待望のツイートで埋まります。

さて、私がこの文章をまとめた形で見たのはあるウェブサイトに掲載されていたものでしたが、これがどのようなサイトだったか想像してみてください。多くの人は支離滅裂な怪文書が並ぶブログや、都市伝説をまとめたようなサイトを思い浮かべるのではないのでしょうか。

ところが、私がこれを発見したのは「ヒーラーのウェブサイトに組み込まれたブログ」でした。

ヒーラーというのはオーラソーマ（カラーセラピー）やアロマセラピー、スピリチュアル・ヒーリングといったセラピーで癒し^{いや}を与える人たちで、スピリチュアルの一部に位置づけ

られます。

さらにサイトを調べたところ、このヒーラーがアロマセラピーを行っている写真が出てきたのですが、そこに写っていたのは、マルチ商法について調べている筆者には見慣れたエッセンシャルオイルのボトルでした。健康被害や不誠実な勧誘も報告されている、米国発のとあるマルチ商法企業の製品だったのです。

この人物は他にも新型コロナウイルスの危険性を必要以上に訴える自然派な傾向があるとともに、「ワクチンはビル・ゲイツによる人口削減計画の一環」という陰謀論も主張していました。

つまりこの人物は、**自然派でスピリチュアルなヒーラーかつ陰謀論者で、さらにはマルチ商法の販売員だったわけ**です。

癒し系や自然派なイメージのあるスピリチュアルと、見るからに怪しい陰謀論、そしてビジネスの一形態であるマルチ商法には一見関係がないように見えます。

ところが、日々陰謀論やマルチ商法の界隈（かいわい）を見てみると、これらを同時に支持している人物は珍しくありません。

さらに例を挙げると、私にはマルチ商法販売員の知人女性がいるのですが、新型コロナウイルス

ウイルス感染症が流行しはじめてからしばらく経ったある日、彼女の Facebook を見ると、「コロナはただの風邪」と主張する陰謀論インフルエンサーの集会に参加した写真をうれしそうにアップロードしていました。彼女はまた、スピリチュアルなヒーラーやセラピストとの会合写真を投稿しながら、「日々わくわくしていれば自己治癒力が高まりワクチンは不要になる」と主張する、反ワクチン主義者でした。

スピリチュアルと陰謀論とマルチ商法――。

陰謀論やマルチ商法には身構える方も、「癒し」や「自然」を掲げるスピリチュアルには安全なイメージを持つのではないのでしょうか。

ところが、右記のようにこれらは重なっており、米国でもヨガやスピリチュアルのインフルエンサーが陰謀論を投稿し、Qアノンの入り口となっていたことが指摘されています。こうしたことを知らなければ、癒しを求めてスピリチュアルに向かった結果、Qアノンや反ワクチン陰謀論者になり、気づけばマルチ商法に取り込まれていた、ということにもなりかねません。

普段から陰謀論やマルチ商法について調べている方は少数派でしょうから、ほとんどの方にはこれらの関係がピンとこないと思います。また、それぞれをばらばらに追いかけて

いても、なかなか関係は見えてきません。

しかし、ある補助線を引くことでこれらの関係が明らかになるのです。

それは戦後米国のカウンターカルチャーを前身とし、神智学しんちがくやスピリチュアリズム（心霊主義）といった宗教的な思想を取り込んで成立した「ニューエイジ」が日本に持ち込まれ、現在のスピリチュアルに至る一連の潮流です。この潮流を辿ると、ヨガや瞑想、オーガニックに民間療法、自己啓発とマルチ商法、そして UFO や陰謀論といった、ここまで挙げてきたものが次々と現れてきます。

私はたまたま元オカルト少年（「ノストラダムスの大予言」が外れたため懐疑派に転向）で、マルチ商法や自己啓発セミナーにも関心があったことから、この潮流について調べ、発信していたところ、本書を著す機会をいただきました。

本書では、右記の潮流を辿りながら、関連のある人名や事件名、固有名詞や、その周辺用語についても解説していきます。

たとえば、「チャネリング」や「爬虫類型宇宙人」などの「いかにも」な言葉もあれば、「ステイプ・ジョブズ」「安倍昭恵」といった超有名人、「癒し」や「ボードゲーム」「シユ

タイナー教育」という、およそ関連なさそうな言葉も多数含まれています。これらの言葉を見出しの代わりに、関連がある各項に「タグ」として、できるだけ記載しました。

じつは、これらの聞いたこともない言葉、あるいは普段自然に見聞きし、使っている言葉が、不幸への入り口になることを、あなたはイメージできるでしょうか。

たとえば、信賴している知人から「ボードゲームをやるう」と言われてついていたことがきっかけで、マルチ商法にのめり込むことになるかもしれません。あるいは、「あのジョブもそうだったんだよ」と絶対菜食主義をすすめられたことがきっかけで、がんを民間療法で治そうとするかもしれません。

もちろん、一概にそれを悪いとは言いません。

しかし、こうした世界にまったく免疫がない状態で足を踏み入れたことで、自身はもとより家族や友人などの周囲の大切な人を不幸にしたり、陰謀論者が語るところの「闇の勢力」と闘う「目覚めた人々」として一生を過ごすことになってしまう可能性があるとしたらどうでしょう。

まだこの段階では、「お前は何を言っているんだ？」と思う読者もいることでしょう。しかし、本書を読み進めていただければ、きっとその意味をご理解いただけるはずです。

そして同時に、「虫の知らせ」と言いますか、良からぬ人や集団、思想へ対する危機察知能力、すなわち「あ、これは怪しいな」とピンとくる感度を高められるはずです。それこそが、本書が目指していることなのです。

それでは、怪しくも独特の魅力を放つ、スピリチュアルな潮流を辿っていきましょう。

ニューエイジ

ラジニージ
超越瞑想
マヤ暦
UFO コンタクティ
マクロビオティック

代替医療

カイロプラクティック
ホメオパシー
レイキ

人間性回復運動
エサレン研究所

精神変容・靈的部分が発展

ヒッピー
コミュン
オーガニック
菜食主義
自然派
LSD
ティモシー・リアリー
ビートルズ
チャールズ・マンソン
スチュワート・ブランド
ステーブ・ジョブズ

カウンターカルチャー

先駆となった思想

心霊主義
神智学
人智学

セルヴェトゥス
スウェーデンボルグ
メスマル

ニューソート

フィアス・クインビー
メリー・ベーカー・エディ

自己啓発・マルチ商法

ナポレオン・ヒル
ジョセフ・マーフィー
ノーマン・ヴァインセント・ピール

引き寄せ
スピ量子力学
マルチ商法
コーチング

自己啓発セミナー

ライフダイナミクス
ライフスペース事件
TOSHI 洗脳事件

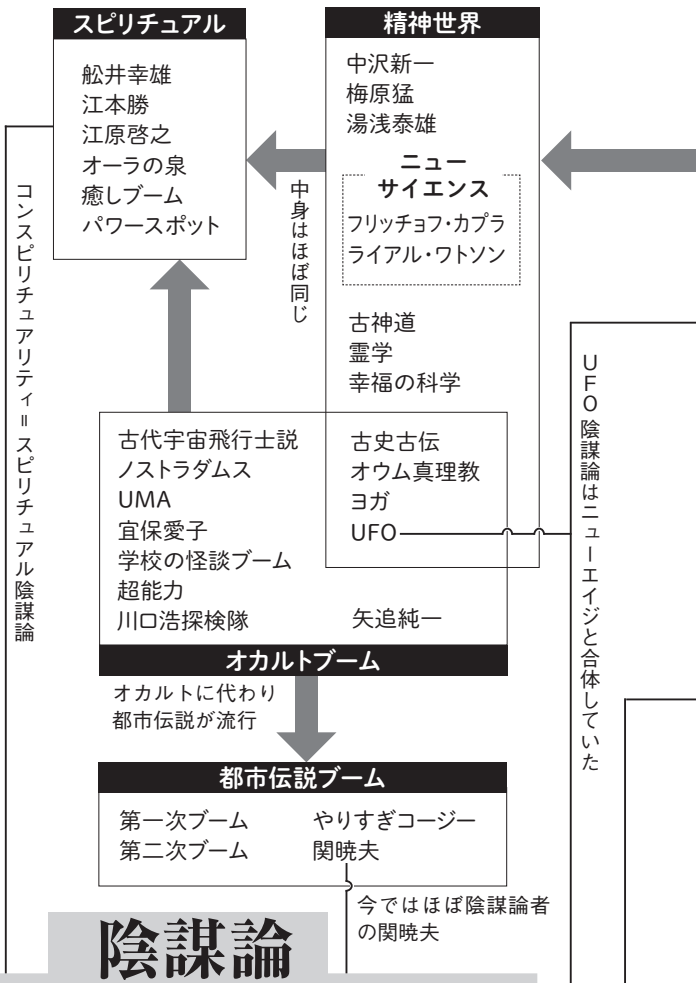
Q
ア
ノ
ン
が
存
在
引
き
寄
せ
系
の
人
物
に

自己啓発
ニューソートから生まれた

ユダヤ陰謀論と関係の深い神智学
はナチスにも影響を与えた

陰謀論に
至るまでの
近現代史
裏クロニクル

政府や大企業を嫌う自然派の傾向から陰謀論に走る人も



陰謀論

- UFO 陰謀論 (MJ-12、エリア 51)
- デヴィッド・アイク (爬虫類型宇宙人陰謀論)
- 9.11 陰謀論 ピザゲート事件 ユダヤ陰謀論
- アポロ月面着陸虚構説 新型コロナ陰謀論
- 反ワクチン陰謀論 Q アノン

〔凡例〕 本書で頻出する以下の言葉と、その定義について。

スピリチュアリズム…フォックス姉妹（↓55ページ）に端を発する、不滅の霊魂との交流を扱う心霊主義。

スピリチュアル…スピリチュアリズムや神智学からニューエイジ、精神世界から今日まで受け継がれてきた「目には見えない世界、力や全体論」を扱う思想・実践群。

スピリチュアルな、霊的な…目には見えない世界、現世を超越した世界と関係している様子（日本語で「霊」というと幽霊を想像してしまいますが、ここでの霊は「スピリット」であり、ネガティブなニュアンスはありません）。

スピリチュアリテイ、靈性…目には見えない世界や存在、またそうした存在との繋がりのこと。
自己啓発…個人の考え方や行動を変えることで自己実現や幸福を手に入れようとする取り組み。
自己啓発セミナー…閉鎖空間において多人数で行われ、精神的・肉体的に負荷のかかる講習やワークを通じて、精神的な成長やコミュニケーション能力の向上を目指すセミナー（現在では「自己啓発セミナー」にも多種多様な形式が含まれますが、本書ではこの形態のセミナーを指す用語とします）。

あなたを陰謀論者にする言葉——もくじ

まえがき 自然派でスピリチュアルなヒーラーかつ陰謀論者で、さらにはマルチ商法の販売員—— 3

陰謀論に至るまでの近現代史裏クロニクル—— 10

I

カウンターカルチャーとニューエイジ—— 19

第1章 カウンターカルチャーとヒッピー

思想共同体が生み出した現代に通じる文化—— 24

ヒッピーの富裕層への「転向」、そして現代の消費社会—— 30

現代では許容されなくなったヒッピー文化の代表格—— 37

若者を魅了したカウンターカルチャーの暗転—— 45

第2章 ニューエイジに繋がる源流

カウンターカルチャーの終焉と精神の新時代を目指したニューエイジ ————— 51

スピリチュアルの先駆けである神智学 ————— 58

神智学から派生したシュタイナーの人智学 ————— 66

第3章 ニューエイジの覚醒

ヒッピーが夢見た新時代 ————— 74

テロ集団と化したラジニーシ教団とオシヨー ————— 85

現代のスピリチュアルが考えている宇宙人と一般的な宇宙人の違い ————— 94

古代に注目して新時代到来を予言したホゼ・アグエイアスの経歴と思想 ————— 102

第4章 現代社会に潜り込んでいるニューエイジ

健康法・ダイエット法としてのマクロビオティックの裏側 ————— 107

企業でも受け入れられるようになった超越瞑想と、その真の目的	118
超越瞑想とマインドフルネスの共通点と違い	124
ニューエイジの思想と繋がる民間療法	129

II 自己啓発とマルチ商法

143

第5章 ニューソートと自己啓発

ニューソートという宗教思想、その源流	145
自己啓発のベースをつくった3人	154
引き寄せ、科学、陰謀論を結ぶ点と線	164
現代につながる集団セラピーを生んだエサレン研究所	174

第6章 マルチ商法の思想

マルチ商法・疑似科学の親和性

マルチ商法から生まれた自己啓発セミナー

193 183

Ⅲ 精神世界とスピリチュアル

215

第7章 知識人を魅了した精神世界と大衆に浸透したオカルトブーム

知識人・高学歴を取り込んだ精神世界とニューアカ

217

70年代以降にテレビや雑誌を席巻したオカルトブームとその衰退

222

安倍昭恵から読み解くスピリチュアルとイデオロギーの超越

228

エクササイズ以上の意味を見いだされるヨガ

238

現在でも日々注目の的の2大新宗教

249

ニューサイエンスの衰退

258

第8章 実利とカジュアルのスピリチュアル

船井幸雄が広めたビジネス系スピリチュアル

元・超能力少年清田益章が端緒となったパワースポットとその大衆化

怪しさが脱臭された「癒し」という言葉が持つ汎用性

宜保愛子と江原啓之がテレビに与えた影響

264

283

289

297

IV

コンスピリチュアリティ スピリチュアルと陰謀論

303

第9章 闇の勢力と闘う救世主ドナルド・トランプという虚像

急速に広がりはじめた「Qアノン」とは何か？

陰謀論とスピリチュアルの融合「コンスピリチュアリティ」

305

310

第10章 我々の日常に侵食してきた陰謀論

怪しくも胸がときめくUFO陰謀論

「都市伝説」のエンタメ性とその毒

環境保護や健康志向と相性が悪い大企業

デヴィッド・アイクの荒唐無稽さの中のリアリティ

あとがき 自然派とスピリチュアルとマルチ商法と陰謀論を繋ぐもの

参考文献

装丁 山之口正和十沢田幸平(OKIKATA)

図版作成 富永三紗子

本文デザイン・DTPチャート図作成 フォレスト出版編集部

322

335

344

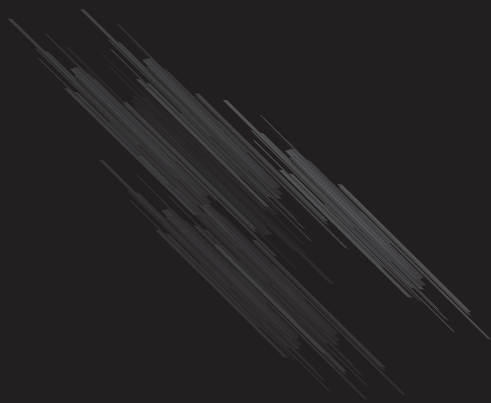
349

361

366

I

カウンターカルチャーとニューエイジ



第1章 カウンターカルチャーとヒッピー

この本ではまず、1960年代の米国で本格展開されたカウンターカルチャーについて見ていきます。

戦後の米国は持続的な経済成長を達成し、経済的に豊かな社会を実現しました。「郊外の父」と呼ばれる不動産開発業者、ウィリアム・レヴィットが生み出した住宅の大量生産方式は、中流階級でも郊外に一戸建てを持つことを可能にし、その駐車場には同じく大量生産された自動車が停められました。さらに電子レンジや冷蔵庫、洗濯機にテレビと、便利な家電が急速に普及し、ここでも大量生産された製品が家庭に並ぶこととなりました。

好景気は子息を大学に通わせることも可能にし、ベビーブーマーが大勢大学へと進学しました。

1965年には高校卒業者の約半分が大学に入学するまでになった結果、急増する学



レヴィットタウン。同じような家が並ぶ。

生に大学側の対応は追いつかず、講義室に400人、500人の学生を収容するのが当たり前になっていました。

まさに大量生産・大量消費社会です。

このような豊かさや進学率の上昇は、安定した生活や衣食住の充実、家族の形成を重視した親世代とは異なった視点で社会を見る若者たちを生みました。彼らが生み出したのが保守的な価値観や既成権力、近代国家に対抗するカウンターカルチャーでした。

それはたとえば、ロックであり公民権運動であり、反戦運動であり新左翼であり、環境保護運動であり、フェミニズムであり、LSDであり、大麻であり、オーガニックでした。

このうち公民権運動や反戦運動（特にベトナム反戦運動）は一般的にも歴史の1ページとして取り上げられることが多く、また当時のロックバンドで最も有名なビートルズも音楽の教科書に掲載されるまでになっています。

一方で、本書のテーマであるスピリチュアルや精神変容に関わるもの、特にLSDや大麻といったドラッグに関わるものや、ヨガや瞑想といった東洋の修行法（第3章で詳述）について語られることはほとんどありません。

しかし、この後見ていきますが、ビートルズがLSDの教祖と呼ばれるティモシー・リアリーのために曲をつくっていたり、アップル創業者のステイブ・ジョブズがグル（導師）を求めてインドに向かっていたりと、誰もが知っている有名人もこの「怪しげ」な部分と深く関わっており、当時の文化やその後の影響を考えるためには欠かすことのできないものなのです。

ここからは普段無視されがちな怪しい文化について見ていきます。

思想共同体が生み出した現代に通じる文化

⊗ ヒッピー

カウンターカルチャーは急増した高学歴な若者に浸透し、とある独特の思想とライフスタイルを持つ人々を生みました。ヒッピーです。

その典型的なイメージは、髪型はボヘミアンスタイルのロングヘアで、服は極彩色のシャツやネイティブアメリカンを思わせる革のベスト、ベルボトムはのジーンズを穿いて、やたらとアクセサリーを着けているというものです。

アニメ「サウスパーク」にヒッピーで街が埋め尽くされる回があったり（登場人物である保守的なカートマンにとってヒッピーは不倶戴天の敵です）、映画「凶鑑に載ってない虫」で松尾スズキがヒッピー風の友人を演じていたり、時折映像作品にヒッピー風のキャラクターが登場することがあるため、ヒッピーについてあまり知らない方にもイメージは通じるかもしれません。

彼らはロックフェスで踊り狂い、LSDや大麻で精神変容を味わい、ヨガや瞑想に触れて東洋の神秘に心ときめかせ（これにはキリスト教への反発もありました）、自然農法や菜食主義で環境に気を使い、公民権運動や反戦運動に参加して愛と平和を訴えました。

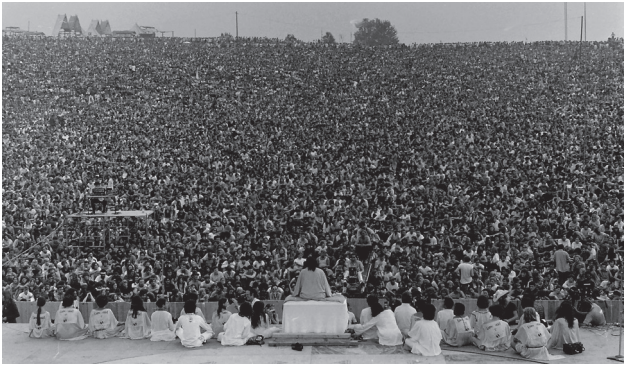
⊗ ロックフェス／ドラッグ

この後は触れることがなくなるのでロックフェスについて少し解説しておきましょう。

そのルーツの1つと言われるモンタレー・ポップ・フェスティバルは1967年6月に行われました。この年の夏はサンフランシスコに10万人ものヒッピーが集結してサマー・オブ・ラブ¹という社会現象を引き起こし、その存在を世間に知らしめました。

この2年後には参加者数40万人以上とも言われる伝説のイベント、ウッドストック・フェスティバルが開かれます。

大麻を吸って音楽に耽溺^{たんでき}し、遠い異国を夢見ているという^{たんでき}と、単なる遊び人に見えてしま^{たんでき}う方もいるかもしれませんが、ヒッピーの多くはそれなりに豊かな環境で育った高学歴な若者であり、先ほど見た雑多な項目の裏には、より良い世界を目指す彼らなりのポリシーがありました。



1969年、ウッドストック・フェスティバルのオープニング
スピーチを行うヨガのグル、
スワミ・サッチダナンダ（1914 - 2002年）。

公民権運動や反戦運動、環境保護運動はもちろん、ドラッグによる精神変容は社会に抑圧された個人を解き放つことでの社会変革を狙い、東洋への憧憬は西洋社会・物質文明に対しての東洋社会・精神文明を受け入れることによる社会の見直しを試みたものでした。

また、ロックは自由や平和を歌う他、ロックフェスという特殊な空間を生み出したり、黒人でありながら白人のスターとなったジミ・ヘンドリクスや、女性ロックシンガーとして活躍したジャニス・ジョプリンなど、人種や性別を超える志向を持つものでした。LSDと大麻を除けば、ヒッピー文化は現在でもおおむね肯定的に受け入れられ

て存続しており、ヒッピー自体は見られなくなったものの、その遺産が身近なところで影響を与えているのがわかります。

デパートやスーパーに行けばオーガニックや無添加を謳^{うた}う食材が売られていますし、ヨガはエクササイズとして定着し、多くの教室が存在しています。さらに、瞑想は仕事のパフォーマンス向上やストレスマネジメントを目的としてシリコンバレー企業で取り入れられたことから、日本の企業も注目していますし（第4章で説明しますが、似たような現象は70年代にもありました）、ロックフェスを楽しみにしている方も多いでしょう。

⊗ コミュニオン／アーミッシュ／モルモン教／ユタ州

そんなヒッピーたちが暮らしていたのがコミュニオンでした。

主流社会とは違った生活を求めた彼らは都市や住宅地から離れ、自分たちの理想を実現するための集落で共同生活を始めました。

このような思想共同体はヒッピーの他にもアーミッシュやモルモン教といった宗教共同体がよく知られています。

アーミッシュというのはハリソン・フォード主演の映画「刑事ジョン・ブック 目撃者」

にも登場する、18世紀頃のスイス・ドイツの生活様式で暮らしている人々です。彼らは電
気を使わず、主な移動手段は馬車です。米国やカナダの「電気も自動車も使わない人々」
について聞いたことのある人も多いと思いますが、彼らは16世紀オランダのメノー・シモ
ンズを中心として形成された宗教改革急進派、メノナイト派から分派したキリスト教の一
派です（メノナイト派もまた昔の様式で生活を送っています）。

また、モルモン教は正式名称を「末日聖徒イエス・キリスト教会」といい、モルモン書
を聖典としていることからこう呼ばれます。これは設立者であるジョセフ・スミス・ジュ
ニアが19世紀に掘り出した、黄金の板の聖文を翻訳したものとされています。

彼らは設立時から何度も弾圧され、ミズーリ州インディペンデンスやイリノイ州ノー
ヴーといった場所への移住を繰り返し、最後は当時未開の荒野だったユタへと移り住みま
した。モルモン教徒はここでも弾圧され、ブキャナン大統領やリンカーン大統領に軍隊
を派遣され、さらにはモルモン教で採用されていた一夫多妻制実践者の公民権を停止する、
エドモンド・タッカー法を制定されてしまいます。

一夫多妻制は政府がモルモン教を弾圧する最大の理由であり、ここで彼らはその放棄を
選びます。

モルモン教が政府の意向を受け入れる態度を見せた結果、ユタは州へと昇格しました。今では州全体がモルモン教の聖地として知られ、さらには大統領候補を輩出するほどの(2012年大統領選におけるミット・ロムニーがそれです)力を持つようになっていきます。宗**教共同体が国家に順応した例**と言えます。

また、**ユタ州は大手マルチ商法企業の本社が集結するネットワークビジネスの本場**として知られており、この点でも本書と関係のある土地と言えます。

その他、本書でこの後取り上げるラジニーシ(↓85ページ)やアダムスキー(↓94ページ)も共同体を形成していた人物です。

- 1 1967年の夏に起こった、大勢のヒッピーがサンフランシスコのヘイト・アシユベリーに押し寄せた社会現象。カウンターカルチャーの頂点とも言われる。